

## 令和7年度(2025年度)第1回豊中市社会教育委員会議 議事概要

- 日時：令和8年（2026年）3月27日（金）16時～17時30分
- 会場：豊中市役所第一庁舎6階教育委員室
- 出席者：秋山、井川、佐藤、寺嶋、濱元、福本、山地（50音順・敬称略）
- 傍聴者：なし
- 事務局：次長兼社会教育課長 北村、中央公民館長 本田、千里公民館長 江川、読書振興課長 西口、学び育ち支援課主幹 津田、社会教育課主幹 久住、課長補佐 荒井、副主幹兼青少年交流文化館いぶき館長 島津、文化財保護係長 陣内、社会教育係 桐山

### 【会議次第】

1. 開会
2. 案件
  - (1) 社会教育関係団体補助金の交付について
  - (2) 社会教育推進の取組みについて
  - (3) 令和8年度（2026年度）の主要施策について
  - (4) その他
3. 閉会

### 【資料】

#### 次第

- 資料1 令和8年度（2026年度）社会教育関係団体補助金の交付について
- 資料2 社会教育推進の取組みについて
- 資料3 令和8年度（2026年度）教育予算の概要 主要施策（社会教育費抜粋）
- 別紙1 豊中社会教育委員名簿
- 別紙2 社会教育関係法令（抜粋）
- 別紙3 青少年自然の家わっぱる指定管理者の候補者選定結果について
- 当日資料1 社会教育主事 配置計画
- 当日資料2 豊中市の社会教育の課題と今後に向けて
- 当日資料3 社教連会報

### 議事概要

1. 開 会
2. 案 件
  - (1) 社会教育関係団体補助金の交付について

事務局より資料1について説明

議 長：近年、PTAへの参加を疑問視する声や、PTAを無くそうとする動きがあるが豊中市はいかがか。

事務局：豊中市の PTA も参加を疑問視する声が挙がり、PTA を解散する学校も出てきている。加えて豊中市 PTA 連合協議会の加盟団体数も減少してきている。

議長：PTA ではなくとも、自主的に学校を支援できる仕組みなどを検討する際に、行政からのサポートがより必要になっていくと考える。

委員：PTA の活動について積極的に周知は行っているか。

事務局：昨年度は公式 X を使って、豊中市 PTA 連合協議会役員と市長の対談の様子等を X に挙げさせていただいている。教育委員会としても、保護者が PTA から離れていかないようにする取り組みが必要と考える。

委員：今後の PTA の在り方についてはどのように考えているのか。

事務局：実際に令和 8 年度から、希望者のみで PTA に代わる会の運営を行い、会費を徴収しないというスタイルの学校が出てきている。こういったモデルケースが一種の PTA の在り方になっていくと考えるので、豊中市 PTA 連合協議会の役員会などを通じて、各単 P に情報共有をさせていただいている。

委員：ボーイスカウトとガールスカウトは別々に活動しているのか。

事務局：別の組織で活動している。ボーイスカウトは女性も受け入れているが、ガールスカウトは女性のみで活動している。

## （２）社会教育の推進の取組みについて

事務局より資料 2 について説明

議長：様々な事業を試行錯誤して運営していると思う。中には続けていくとヒットする事業が見つかると思うので、今後も同様にチャレンジを続けてほしい。また、社会教育主事が集まって議論することで新たな発想も出てくると考える。

事務局：連続講座の主な特徴として、参加者が主体的に自ら地域活動の担い手になってもらうところまでをサポートすることがある。常に社会教育の在り方、人材育成をキーワードに考え続けて行き、社会教育主事の役割を活かしながら、主事同士で連携し、社会教育の推進を進めていきたい。

委員：公民館で行われる連続講座に来られる方は地元の方が多いか。

事務局：地元の方もいらっしゃるが、遠方から来てくださる方もたくさんいる。

委員：同世代の親同士が知り合う機会がないという意見をよく聞く。公民館をより活用して、親同士がつながれる場所を作ることの重要性を感じる。

委員：社会教育の在り方について令和 5 年度に方向性が示されたと思うが、全体の進捗などを示してほしい。また、結果をもとに振り返りや検証などを行っていく必要があると思う。

事務局：進捗のモニタリングをしていく中で数値目標を定めながら、どこまで達

成しているかを評価して、委員の皆様に様々な角度からみていただく必要があると思っている。評価指標の設定を含め、来年度中にお示しさせていただく。そのうえで振り返りをさせていただきたい。

### (3) 令和8年度(2026年度)の主要施策について

事務局より資料3について説明。

議長：わっぱるのバス代補助についての説明を願う。

事務局：わっぱるは能勢町宿野というロケーションに存在している。豊中市からは車で1時間、電車だと阪急の山下駅が最寄りになり、阪急バスを乗り継いで現地に赴く必要がある。わっぱるを利用するにあたり、電車とバスでの移動になり、現実的に小中学校単位での移動が難しいので、バス移動が基本になる。そこでわっぱるの利用を促進するために、補助金を出している。

議長：補助金をきっかけに様々な学校に利用してもらいたいと思う。

委員：放課後こどもクラブではどのような習い事ができるのか。(主要施策の説明に基づき、民間委託された放課後こどもクラブにおいて)

事務局：保護者と子どもにアンケートを行い、行いたい習い事を一定数抽出したうえで、教材、講師の確保ができるものに関しては実施している。これはオプションで行っているので、希望される場合は1回500円～1,500円程度をお支払いいただいている。また習い事の一例としては、英語学習や理科実験、ダンス教室等を実施している。

### (4) その他について

1. 事務局より別紙3について説明。

2. 事務局より中央図書館構想を口頭で説明。

3. 議長より当日資料2について説明

委員：わっぱるの団体利用について年間どれぐらいの利用があるのか。

事務局：年間300団体を超える利用がある。

議長：地域と子どものつながりを強化することは、教育活動の効果を高めるうえで重要であり、「地域で子どもを育てる」という視点に立った社会教育の推進が求められる。そのため、社会参加や学びあいの意義を市民全体に伝えることが重要となる。

あわせて、地域教育フォーラムでも述べたが、他市事例(守口市や山形県酒田市の生涯学習センターでの部活動など)を参考にしながら、より豊中市の強みを活かせるように、人材育成の仕組みを整備し、人がつながり新たな担い手を発掘・育成する場づくりを進めていく必要がある。

こうした取り組みが今後の豊中市の教育およびまちづくりの成否を左右すると考えるので、社会教育推進のためのチャレンジを続けていってほしい。

### 3. 閉 会